

都市再生整備計画 事後評価シート

はん だ う ん が く ら ま ち さ と ち く
半田運河蔵の街・ごんぎつねの里地区

平成27年3月

愛知県半田市

4) 定性的な効果 発現状況	<p>平成25年の新美南吉生誕100年記念事業を契機として南吉の里ネットワークが形成され、これまで商工会議所、観光協会、南吉記念館、商工観光課で取り組んでいた観光に関する取り組みに、周辺の飲食店や市民が加わり、新美南吉の顕彰活動や観光まちづくりの取り組みの輪が広がっている。</p> <p>・雁宿公園の整備に向けてワークショップを開催したことにより、雁宿公園の歴史的価値の再認識や防災・防犯に関する地域住民の意識向上が図られた。</p>			
5) 実施過程の評価	モニタリング	<p>実施内容</p> <p>計画の実施管理、関係他団体との連絡協議、進捗途中での事業の再評価の実施</p>	<p>実施状況</p> <p>都市再生整備計画に記載し、実施できた ●</p> <p>都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した</p> <p>都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった</p>	<p>今後の対応方針等</p> <p>引き続き、3か年実施計画に基づき、進行管理を行うしくみを継続する。</p>
	住民参加 プロセス	<p>・新美南吉生誕100年記念事業実行委員会との協働による新美南吉生誕100年記念事業の実施</p> <p>・半六郎西蔵の土壁塗りワークショップの実施</p>	<p>都市再生整備計画に記載し、実施できた</p> <p>都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した ●</p> <p>都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった</p>	<p>・平成25年の新美南吉生誕100年終了後は、実行委員会は解散するが、実行委員会の構成団体及び協働した各種市民活動団体との連携は継続し、今後も新美南吉の顕彰活動及び「南吉のふるさと半田」のPRを展開していく。</p> <p>・NPO法人半六コロボと協働で半田運河周辺の観光の拠点となるよう魅力の向上に努める。</p>
	持続的なまちづくり 体制の構築	<p>・半田運河の会による運河周辺の情報発信</p> <p>・はんだ蔵のまちネットワークによる蔵のまちエリアの情報発信</p> <p>・「ごんのふるさと」まちづくり協議会による岩滑地区の情報発信</p>	<p>都市再生整備計画に記載し、実施できた</p> <p>都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した ●</p> <p>都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった</p>	<p>・主催するイベント等の開催に際し、関係機関との調整等の後方支援を行う。</p> <p>・行政と民間の協働により、蔵のまちエリアの活性化に向け、連携を強化する。</p> <p>・主催するイベント等の開催に際し、関係機関との調整等の後方支援を行う。</p>

様式2-2 地区の概要

半田運河蔵の街・ごんぎつねの里地区(愛知県半田市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
住んでよく 訪れてよい 賑わいある都市環境の形成 ～半田の歴史・文化が感じられる暮らし・憩い・回遊空間づくり～ 目標1:半田の歴史と文化が感じられるまち ～歴史文化の伝承と観光活用～ 目標2:歩きやすく賑わいある中心市街地の形成 ～市街地回遊ネットワークづくり～ 目標3:生涯を通じて安全・安心・快適に暮らせるまち ～災害に強く都市機能に恵まれた豊かな生活文化の充実～	許の里・酒の文化館・新美南吉記念館の来場者数	単位:人/年 191,950	H20 218,710	H26 218,913
	知多半田駅や最寄の駅周辺の整備、商業やサービス業また観光の振興に対する満足度	単位:Pt -1.56	H21 -0.59	H26 -1.26
	安全な避難路や避難場所の分かりやすさや充実度に対する満足度	単位:Pt -1.44	H21 -0.17	H26 -1.37

高質空間形成施設「半田運河周辺景観道路整備事業」

観光ルートの修景整備の一環として、舗装のグレードアップにより、半田の歴史と文化が感じられるまち及び歩きやすく賑わいあるまちの形成に寄与する。

整備前



整備後



整備前



整備後

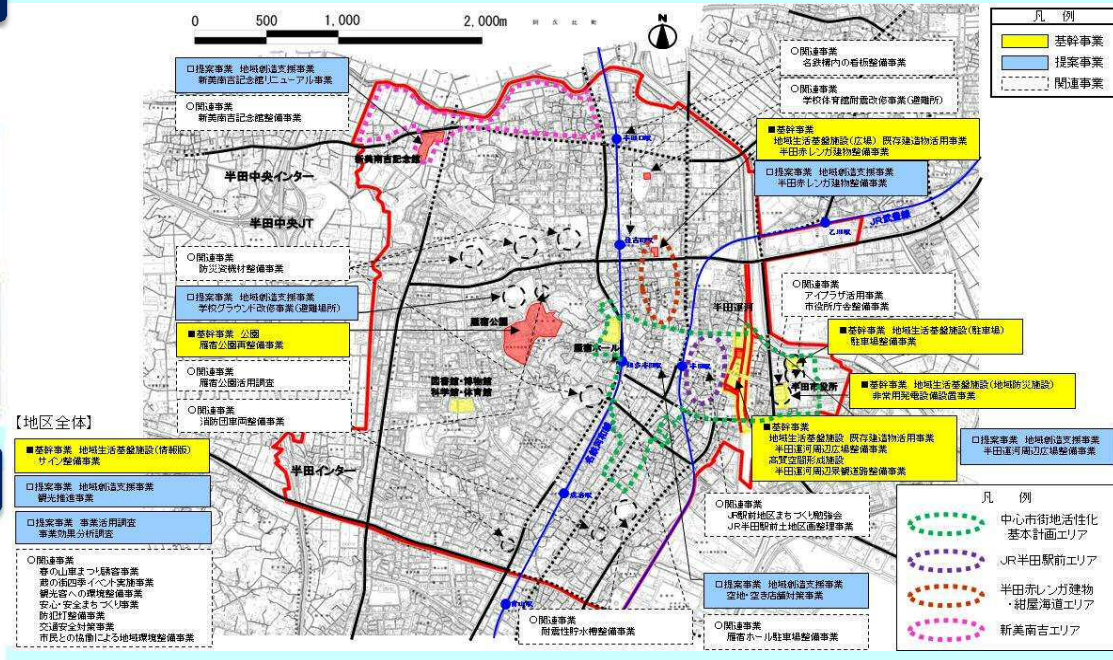


東屋



地域創造支援事業
「観光推進事業」





地域生活基盤施設(情報板)「サイン整備事業」



回遊性向上の一環として整備することにより、半田の歴史と文化が感じられるまち及び歩きやすく賑わい

地域創造支援事業「観光推進事業」

主要観光施設の紹介や連携を高めるための観光案内板の設置や南吉を広くPRするための記念事業を行うことにより、半田の歴史と文化が感じられるまち及び歩きやすく賑わいあるまちの形成に寄与する。

新美南吉生誕100年記念事



観光案内板



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 半田運河周辺における道路の高質化や観光の拠点となる広場の整備を行った。今後は半田運河周辺の魅力をさらに高めるため、源兵衛橋以南や下町通り等の道路の高質化及び景観形成を図る必要がある。 半田赤レンガ建物における窓枠改修を行い、カプトビール工場時代の意匠を復元するとともに特別公開時の快適性を向上させることで観光客等の増加が図られた。特別公開の際には整備工事についてもPRでき、イメージアップを図ることができた。今後は観光バスの受け入れ等を考慮した交通環境整備が必要である。 新美南吉生誕100年記念事業を始め、南吉に関する顕彰活動が市内外に広がり、地域団体により矢勝川の彼岸花の植栽活動や清掃活動が行われ、秋まつりを開催することにより多くの観光客が訪れるようになった。今後は岩滑地区において童話の情景や田園風景を活かした景観形成をさらに進め、「南吉童話のふるさと」の魅力向上を図る必要がある。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 駅前の再開発ビルを始め、駅周辺の低未利用地について店舗整備に対する補助を行うことで、新規事業者の出店を促進する。 良好な景観の維持や集客力を向上するため、基盤整備を始め観光資源となる施設の機能と魅力の向上を図る。 観光拠点となる半田運河、岩滑地区、半田赤レンガ建物では、各種まちづくり団体等や半田赤レンガ建物の指定管理者と連携を図り、季節に合わせたイベント等の開催により、魅力のPRと持続的な集客に努める。 避難場所をはじめとする施設の機能強化を進めるとともに、市民への避難場所の周知に努める。 点在する観光資源へのネットワークの改善やサイン整備を推進する。 半田運河周辺地区や岩滑地区において修景整備を行うとともに市民による景観形成に関わる行為に対して支援を行う。 歴史的価値を踏まえ、市民の憩いの場として市民ニーズに合った公園整備を進める。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値	●	指標1(酢の里・酒の文化館・新美南吉記念館の来場者数) ◆従前値:191,950人/年(H20)→◆目標値:221,950人/年(H26)	指標1(酢の里・酒の文化館・新美南吉記念館の来場者数) ◆従前値:191,950人/年(H20)→◆目標値:218,710人/年(H26)	指標1:既存建造物活用事業の事業量の増加、地域生活基盤施設(情報板)、高質空間形成施設(緑化施設等)の事業量の減少による影響を勘案し、目標値を再精査したため。	
		指標2(知多半田駅や最寄の駅周辺の整備、商業やサービス業また観光の振興に対する満足度) ◆従前値:-1.56Pt(H21)→◆目標値:-0.52Pt(H26)	指標2(知多半田駅や最寄の駅周辺の整備、商業やサービス業また観光の振興に対する満足度) ◆従前値:-1.56Pt(H21)→◆目標値:-0.59Pt(H26)	指標2:地域生活基盤施設(情報板)、高質空間形成施設(緑化施設等)の事業量の減少による影響を勘案し、目標値を再精査したため。	
		指標3(安全な避難路や避難場所のわかりやすさ充実度に対する満足度) ◆従前値:-1.44Pt(H21)→◆目標値:0.65Pt(H26)	指標3(安全な避難路や避難場所のわかりやすさ充実度に対する満足度) ◆従前値:-1.44Pt(H21)→◆目標値:-0.17Pt(H26)	指標3:地域生活基盤施設(耐震性貯水槽整備事業、非常用発電設備設置事業)の追加による影響を勘案し、目標値を再精査したため。	
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業		当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
事業	事業箇所名	事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路									
公園	雁宿公園	80	4.9ha	53.0	3.8ha	事業費、事業内容、事業年次の変更(平成23年3月)	指標への影響はあるが、目標達成を確実にするための事業であり、指標の変更はない。(平成23年3月)		●
						事業費の変更(平成24年3月)	事業費の変更のため、指標への影響はない。(平成24年3月)		
						事業内容、事業費の変更(平成25年2月)	事業内容の変更による指標への影響を考慮し、目標値を再精査した。(平成25年2月)		
						事業費、事業年次の変更(平成26年2月)	事業内容に変更はないため、指標への影響はない。(平成26年2月)		
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設(広場)	半田運河周辺広場整備事業	295	2,965㎡	241.0	2,965㎡	事業費、事業年次の変更(平成22年9月、平成23年3月、平成24年3月)	事業費、事業年次の変更のため、指標への影響はない。(平成22年9月、平成23年3月、平成24年3月)		●
						事業費の変更(平成25年2月)	事業費の変更のため、指標への影響はない。(平成25年2月)		
	半田赤レンガ建物整備事業	-	-	230.4	2,740㎡	事業費の変更(平成26年2月)	一部を既存建造物活用事業へ移行したため、事業費が変更となった。全体の事業量に変更はないため、指標への影響はない。(平成26年2月)		●
地域生活基盤施設(情報板)	サイン整備事業	60	新設12基、改良26基	24.0	新設12基	事業費の変更(平成22年9月、平成23年3月、平成24年3月)	事業費の変更のため、指標への影響はない。(平成22年9月、平成23年3月、平成24年3月)		●
						事業費、事業年次の変更(平成25年2月)	事業費、事業年次の変更のため、指標への影響はない。(平成25年2月)		
						事業費、事業量の変更(平成26年2月)	事業費、事業量の変更による指標への影響を考慮し、目標値を再精査した。(平成26年2月)		
地域生活基盤施設	学校体育館耐震改修事業(避難所)	731	1,900㎡	-	-	事業費の変更(平成22年9月)	事業費の変更のため、指標への影響はない。(平成22年9月)		
						事業の削除(平成23年3月)(関連事業へ移行)	他省庁の補助により実施するため、関連事業へ移行。事業内容に変更はないため、指標への影響はない。(平成23年3月)		
地域生活基盤施設(駐車場)	駐車場整備事業	-	-	5.0	6,500㎡	事業の追加(平成23年3月)	指標への影響はあるが、目標達成を確実にするための事業であり、指標の変更なし。(平成23年3月)		●
地域生活基盤施設(地域防災施設)	耐震性貯水槽整備事業	-	-	-	-	事業の追加(平成25年2月)	事業の追加による指標への影響を考慮し、目標値を再精査した。(平成25年2月)		
						事業の削除(平成26年2月)(関連事業へ移行)	内閣府の元金交付金にて実施することにより、関連事業に移行した。事業内容に変更はないため、指標への影響はない。(平成26年2月)		
	非常用発電設備設置事業	-	-	103.0	-	事業の追加(平成25年2月)	事業の追加による指標への影響を考慮し、目標値を再精査した。(平成25年2月)		●
						事業費の変更(平成26年2月)	事業内容に変更はないため、指標への影響はない。(平成26年2月)		

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	半田運河周辺広場整備事業	-	-	18.8	-	事業の追加(平成26年2月)	地域生活基盤施設(広場)から事業を移行した。全体の事業量に変更はないため、指標への影響はない。(平成26年2月)		●
	半田赤レンガ建物整備事業	-	-	549.8	-	事業の追加(平成26年2月)	既存建造物活用事業(観光交流センター)から事業を移行した。全体の事業量に変更はないため、指標への影響はない。(平成26年2月)		●
	学校グラウンド改修事業(避難場所)	-	-	108.7	-	事業の追加(平成22年9月) (関連事業から提案事業へ移行)	関連事業として指標に寄与することを当初から見込んでいたため、指標の変更をしない。(平成22年9月)		●
						事業費、事業年次の変更(平成23年3月、平成24年3月)	事業費、事業年次の変更のため、指標への影響はない。(平成23年3月、平成24年3月)		
						事業費の変更(平成25年2月、平成26年2月)	事業内容に変更はないため、指標への影響はない。(平成25年2月、平成26年2月)		
	観光推進事業	98	-	49.1	-	事業費、事業年次の変更(平成22年9月、平成23年3月)	事業費、事業年次の変更のため、指標への影響はない。(平成22年9月、平成23年3月)		●
						事業費の変更(平成24年3月、平成25年2月、平成26年2月)	事業内容に変更はないため、指標への影響はない。(平成24年3月、平成25年2月、平成26年2月)		
新美南吉記念館リニューアル事業	48	-	16.0	-	事業費の変更(平成23年3月、平成24年3月、平成25年2月)	事業費の変更のため、指標への影響はない。(平成23年3月、平成24年3月、平成25年2月)		●	
空地・空き店舗対策事業	10	-	18.5	-	事業費、事業年次の変更(平成22年9月、平成25年2月)	事業実績を元に再精査したところ、事業の拡大が必要となったため、指標の変更はしない。(平成22年9月) 事業費、事業年次の変更のため、指標への影響はない。(平成25年2月)		●	
					事業費の変更(平成26年2月)	事業内容に変更はないため、指標への影響はない。(平成26年2月)			
事業活用調査	雁宿公園活用調査	1	-	-	-	事業の削除(平成22年9月) (関連事業へ移行)	直営により調査費用をかけずに実施することとなったため、関連事業に移行した。事業内容に変更はないため、指標への影響はない。(平成22年9月)		
	事業効果分析調査	-	-	4.0	-	事業の追加(平成24年3月)	都市再生整備計画事業の目標や指標に対する事業効果の分析を行うため、指標への影響はない。(平成24年3月)		●
まちづくり 活動推進事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

(参考)関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
雁宿公園活用調査		雁宿公園	-	0.0	-	平成22年度～平成22年度	地域住民とのワークショップにより雁宿公園整備に関する意見をもらい、整備に役立てることができた。	※提案事業から移行(平成22年9月)
蔵のまち四季イベント実施事業			3.3	3.3	平成19年度～	平成19年度～	観光協会等と共に四季折々のイベントを開催することで蔵のまちエリアの賑わい創出につなげることができた。	
春の山車まつり誘客事業			5	5	平成22年度～	平成22年度～	春の山車まつりのPRを行い、地域の賑わい創出につなげることができた。	
交通安全対策事業			24	24	平成24年度～平成24年度	平成24年度～平成24年度	道路整備により歩道を設置し、歩行者の安全性を高めることができた。	
雁宿ホール駐車場整備事業			9	9	平成24年度～平成24年度	平成24年度～平成24年度	駐車場の利便性向上が図られ、来訪者がより快適にホールを利用することができるようになった。	
安心・安全まちづくり事業			210	210	平成22年度～	平成22年度～	自治区が行う防災・防犯活動に対し助成を行い、地域の防災、防犯、基盤の強化につなげることができた。	
防犯灯整備事業			37.5	37.5	平成22年度～	平成22年度～	夜間の防犯性を高め、安心安全に暮らせるまちづくりにつなげることができた。	
市民との協働による地域環境整備事業			5	5	平成22年度～	平成22年度～	市内の環境整備を市民と協働で行うことにより、安全快適に暮らせるまちづくりにつなげることができた。	
学校グラウンド改修事業(避難場所)			200	-	平成25年度～平成26年度	-	避難場所となる施設の耐震化を図り、安全安心に暮らせるまちづくりにつなげることができた。	※提案事業へ移行(平成22年9月)
防災資機材整備事業			51.4	51.4	平成22年度～平成24年度	平成22年度～平成24年度	防災資機材の整備を行い、災害時の被害軽減につなげることができた。	
消防団車両整備事業			14	14	平成22年度～平成24年度	平成22年度～平成24年度	地域の火災時等に出動する消防団車両の更新を行い、安全安心に暮らせるまちづくりにつなげることができた。	
新美南吉記念館整備事業			283	283	平成25年度～平成27年度	平成25年度～平成27年度	展示の更新や駐車場の増設等を行い、記念館の魅力及び利便性の向上を図ることができた。	
JR駅前地区まちづくり勉強会			2.5	2.5	平成22年度～	平成22年度～	地域住民との勉強会により安全安心に暮らせ、賑わいあるまちづくりに向けた機運を高めることができた。	
JR半田駅前土地区画整理事業			1	1	平成26年度～	平成26年度～	安全安心に暮らせ、賑わいあるまちづくりの実現に向け、事業を進捗させることができた。	

市役所庁舎整備事業		2,592	2,592	平成22年度～平成24年度	平成22年度～平成24年度	市役所新庁舎の整備を行い、災害時の拠点として安全安心に暮らせるまちづくりにつなげることができた。	
学校体育館耐震改修事業(避難所)		-	681	-	平成24年度～平成26年度	避難場所となる施設の耐震化を図り、安全安心に暮らせるまちづくりにつなげることができた。	※基幹事業から移行(平成23年3月)
耐震性貯水槽整備事業		-	7.5	-	平成25年度～平成25年度	火災時の消化や災害時の生活水確保のため耐震性貯水槽の整備を行い、安全安心に暮らせるまちづくりにつなげることができた。	※基幹事業から移行(平成26年2月)

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考)※1 計画以前の値 (ア)	従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無		
				基準年度	基準年度	基準年度	目標年度	モニタリング	事後評価	評価値	モニタリング	事後評価	あり	なし	
指標1	酢の里・酒の文化館・新美南吉記念館の来場者数	人/年		191,950	H20	218,710	H26	モニタリング			モニタリング				
								事後評価	確定見込み ●	218,913	事後評価	○			
指標2	知多半田駅や最寄の駅周辺の整備、商業やサービス業また観光の振興に対する満足度	Pt		-1.56	H21	-0.59	H26	モニタリング			モニタリング				●
								事後評価	確定見込み ●	-1.26	事後評価	△			
指標3	安全な避難路や避難場所のわかりやすさ充実度に対する満足度	Pt		-1.44	H21	-0.17	H26	モニタリング			モニタリング				●
								事後評価	確定見込み ●	-1.37	事後評価	△			

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	車両系サインや観光案内板の整備による各施設間の回遊性向上・連携強化に加え、半田運河周辺における景観道路整備事業や(仮称)半六広場の整備に向けた庭園の特別公開、新美南吉生誕100年記念事業および新美南吉記念館リニューアル事業を実施したことにより、施設の来場者数が増加したため目標を達成する見込みである。	平成25年11月から「酢の里」がリニューアルのため閉館したことにより、評価値の推計方法を再検討した。
指標2	商業・サービス業の振興のため知多半田駅周辺において空地・空き店舗対策事業を行うとともに、観光振興のため半田運河周辺道路や半田赤レンガ建物の整備、雁宿公園の活用調査等を実施し、一定の成果を上げているものの、商業やサービス業の振興に関する不満が従前を上回る水準となっており、目標の達成は難しい。	—
指標3	避難場所の充実度に対する満足度を向上させるため、非常用発電設備や耐震性貯水槽の設置、避難場所等の改修を実施し、一定の成果を上げているものの、事業期間中に発生した東日本大震災により安全・安心に対する市民ニーズが高まっていることから、不満と感じる人の割合が依然多く、目標の達成は難しい。	—

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考)※1 計画以前の値(ア)		従前値(イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項(指標計測上の問題点、課題等)
				基準年度		基準年度					
その他の数値指標1	5年前と比較した、良好な景観形成、観光振興、主要な施設への案内の分かりやすさの変化	Pt	-	-	3.0	H21	モニタリング		-	指標2を補完するものとして、歩きやすく賑わいある中心市街地の形成の達成状況を良好な景観形成や観光振興、主要な施設への案内の分かりやすさの変化で評価するため	-
							事後評価	確定	見込み		
その他の数値指標2	5年前と比較した、大規模災害に備えた安全・安心なまちづくりの変化	Pt	-	-	3.0	H21	モニタリング		-	指標3を補完するものとして、生涯を通じて安全・安心・快適に暮らせるまちの達成状況を評価するため	-
							事後評価	確定	見込み		
その他の数値指標3							モニタリング				
							事後評価	確定	見込み		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・平成25年の新美南吉生誕100年記念事業を契機として南吉の里ネットワークが形成され、これまで商工会議所、観光協会、南吉記念館、商工観光課で取り組んでいた観光に関する取り組みに、周辺の飲食店や市民が加わり、新美南吉の顕彰活動や観光まちづくりの取り組みの輪が広がっている。

・雁宿公園の整備に向けてワークショップを開催したことにより、雁宿公園の歴史的価値の再認識や防災・防犯に関する地域住民の意識向上が図られた。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
計画の実施管理	<p>予定どおり実施した ●</p> <p>予定はなかったが実施した</p> <p>予定したが実施できなかった (理由)</p>	<p>【実施頻度】毎年1回</p> <p>【実施時期】7月頃</p> <p>【実施結果】各事業課において3か年実施計画を作成し、適宜見直しを行いながら事業の進行管理を行った。</p>	引き続き、3か年実施計画に基づき、的確に進行管理を行うしくみを継続する。
関係他団体との連絡協議	<p>予定どおり実施した ●</p> <p>予定はなかったが実施した</p> <p>予定したが実施できなかった (理由)</p>	<p>【実施頻度】適宜</p> <p>【実施時期】適宜</p> <p>【実施結果】NPO法人半六コラボ、新美南吉生誕100年記念事業実行委員会などの関係機関との協議調整を行い、事業の進捗に努めた。</p>	これまでの連携を活かし、半田運河周辺や新美南吉のふるさとである岩滑地区の活性化のため、協働で情報発信に努める。
進捗途中での事業の再評価	<p>予定どおり実施した ●</p> <p>予定はなかったが実施した</p> <p>予定したが実施できなかった (理由)</p>	<p>【実施頻度】毎年1回</p> <p>【実施時期】12月頃</p> <p>【実施結果】各事業の進捗状況について関係各課に確認を行い、必要に応じて整備計画の変更を行った。</p>	都市再生整備計画事業を実施する場合は、定期的な庁内会議等により、事業の進捗管理を行う仕組みを継続する。

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
新美南吉生誕100年記念事業実行委員会との協働による新美南吉生誕100年記念事業の実施	<p>予定どおり実施した ●</p> <p>予定はなかったが実施した</p> <p>予定したが実施できなかった (理由)</p>	<p>【実施頻度】計46回 (検討委員会8回、実行委員会12回、作業部会17回、役員会議5回、チーム連絡会議4回)</p> <p>【実施時期】平成20年～平成25年</p> <p>【実施結果】各種会議にて記念事業の企画・立案、審議・承認手続きを行い、記念事業の業務を執行した。</p>	平成25年の新美南吉生誕100年終了後は、実行委員会は解散するが、実行委員会の構成団体及び協働した各種市民活動団体との連携は継続し、今後も新美南吉の顕彰活動及び「南吉のふるさと半田」のPRを展開していく。
半六邸西藏の土壁塗りワークショップの実施	<p>予定どおり実施した ●</p> <p>予定はなかったが実施した</p> <p>予定したが実施できなかった (理由)</p>	<p>【実施頻度】計2回</p> <p>【実施時期】平成26年6月1日、9月28日</p> <p>【実施結果】半六邸について多くの方に知っていただくため、西藏の土壁塗り及び土づくりのワークショップをNPO法人半六コラボが中心となり一般参加者を募って開催した。</p>	NPO法人半六コラボと協働で半田運河周辺の観光の拠点となるよう魅力の向上に努める。

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等	
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要		
半田運河の会による運河周辺の情報発信	<p>予定どおり実施した</p> <p>-----</p> <p>予定はなかったが実施した</p> <p>-----</p> <p>予定したが実施できなかった (理由)</p>	●	市による景観計画策定や半田運河再活性化プロジェクト等を契機に半田運河の魅力をさらに高め、四季を通じた半田市民の憩いの場とすることを目指して発足し、半田運河手作りいかだレースや定期的な半田運河クリーンアップ、花の植栽活動が行われている。	半田運河の会	主催するイベント等の開催に際し、関係機関との調整等の後方支援を行う。
はんだ蔵のまちネットワークによる蔵のまちエリアの情報発信	<p>予定どおり実施した</p> <p>-----</p> <p>予定はなかったが実施した</p> <p>-----</p> <p>予定したが実施できなかった (理由)</p>	●	民間事業者と行政とが連携し、蔵のまちエリアの活性化のため、意見交換や情報共有、イベント開催時における連絡調整等を行っている。	はんだ蔵のまちネットワーク	行政と民間の協働により、蔵のまちエリアの活性化に向け、連携を強化する。
「ごんのふるさと」まちづくり協議会による岩滑地区の情報発信	<p>予定どおり実施した</p> <p>-----</p> <p>予定はなかったが実施した</p> <p>-----</p> <p>予定したが実施できなかった (理由)</p>	●	岩滑地区の観光振興、南吉文学の全国への発信、地域の活性化等を目標に異業種の人々が集い、情報交換をしながら、蛸まつり、矢勝川彼岸花の秋まつり、田んぼアート等を企画、実施している。	「ごんのふるさと」まちづくり協議会	主催するイベント等の開催に際し、関係機関との調整等の後方支援を行う。

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画事業庁内検討組織	都市計画課、企画課、総務課、商工観光課、土木課、スポーツ課、学校教育課、新美南吉記念館	第1回：平成26年9月30日 第2回：平成26年11月6日	都市計画課(都市再生整備計画事業主管課)

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1	その他の数値指標1	その他の数値指標2							
指標名		酔の里・酒の文化館・新美南吉記念館の来場者数	良好な景観形成、観光振興、主要な施設への案内の分かりやすさの変化	大規模災害に備えた安全・安心なまちづくりの変化							
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見		
基幹事業	公園(雁宿公園)	-	観光客等の回遊性を向上させるために行った	○	半田運河周辺景観道路整備事業や観光推進事業、サイン整備事業、駐車場整備事業等を行った結果、都市再生整備計画事業実施以前と比較して良好な景観形成、観光振興、回遊性の向上に対する満足度の向上につながった。	○	大規模災害に備え、防災拠点の機能強化として非常用発電設備の設置を始め、避難場所となる学校グラウンド改修事業や耐震性貯水槽の整備等を行った結果、都市再生整備計画事業実施以前と比較して安全・安心なまちづくりに対する満足度の向上につながった。	-			
	地域生活基盤施設(広場)(半田運河周辺広場整備事業)	○	上させるために、車両系サイン整備、観光案内板整備や駐車場整備等により、計画区域内の3つの施設の連携が強化され、半田運河周辺景観道路整備事業等による修景整備によって、各年度で	○		-		-	-		
	地域生活基盤施設(広場)(半田赤レンガ建物整備事業)	○	ばらつきはあるものの、これまでも多くの来場者があった「酔の里」だけでなく、他2施設についても増加や減少が	○		-		○	-	-	
	地域生活基盤施設(情報板)(サイン整備事業)	◎	下げ止まりになった。また、新美南吉記念館においては、新美南吉生誕100年記念事業および展示のリニューアルを実施したことにより、	◎		-		-	-	-	
	地域生活基盤施設(駐車場)(駐車場整備事業)	◎	来場者は倍増した。	◎		-		-	-	-	
	地域生活基盤施設(地域防災施設)(非常用発電設備設置事業)	-		-		-		-	-	-	
	高質空間形成施設(緑化施設等)(半田運河周辺景観道路整備事業)	◎		◎		-		-	-	-	
	既存建造物活用事業(高質空間形成施設)(半田運河周辺広場整備事業)	○		○		-		-	-	-	
	既存建造物活用事業(地域交流センター)(半田赤レンガ建物整備事業)	○		○		-		-	-	-	
	既存建造物活用事業(観光交流センター)(半田赤レンガ建物整備事業)	○		○		-		-	-	-	
提案事業	地域創造支援事業(半田運河周辺広場整備事業)	○		○	-	-	-	-			
	地域創造支援事業(半田赤レンガ建物整備事業)	○		○	-	-	-	-			
	地域創造支援事業(学校グラウンド改修事業(避難場所))	-		-	-	○	-	-			
	地域創造支援事業(観光推進事業)	◎		◎	-	-	-	-			
	地域創造支援事業(新美南吉記念館リニューアル事業)	◎		◎	-	-	-	-			
	地域創造支援事業(空地・空き店舗対策事業)	-		-	○	-	-	-			
	事業活用調査(事業効果分析調査)	-		-	-	-	-	-			
	雁宿公園活用調査	-		-	○	-	-	-			
関連事業	蔵のまち四季イベント実施事業	◎		◎	-	-	-	-			
	春の山車まつり誘客事業	◎		◎	-	-	-	-			
	交通安全対策事業	-		-	○	-	-	-			
	雁宿ホール駐車場整備事業	-		-	○	-	-	-			
	安心・安全まちづくり事業	-		-	○	-	-	-			
	防犯灯整備事業	-		-	○	-	-	-			
	市民との協働による地域環境整備事業	-		-	○	-	-	-			
	防災資機材整備事業	-		-	-	◎	-	-			
	消防団車両整備事業	-		-	-	◎	-	-			
	新美南吉記念館整備事業	◎		◎	-	-	-	-			
	JR駅前地区まちづくり勉強会	△		△	-	-	-	-			
	JR半田駅前土地区画整理事業	△		△	-	△	-	-			
	アイプラザ活用事業	-		-	○	-	-	-			
	市役所庁舎整備事業	-		-	-	○	-	-			
	学校体育館耐震改修事業(避難所)	-		-	-	◎	-	-			
	耐震性貯水槽整備事業	-		-	-	◎	-	-			

※指標改善への貢献度

◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。

○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。



- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ー：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

<p>今後の活用</p>	<p>区域内の主要な観光施設間において強化された連携の輪を拡充し、さらなる回遊性向上につなげる。</p>	<p>さらなる回遊性向上を図り、観光施設間の連携を強化するとともに、半田運河周辺や雁宿公園の整備を行うことで賑わいの創出につなげる。</p>	<p>機能を拡充している防災施設を災害時に有効活用するため、市民に対し避難路や施設の周知を進める。</p>	
--------------	--	--	---	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2			指標3								
指標名		知多半田駅や最寄の駅周辺の整備、商業やサービス業また観光の振興に対する満足度			安全な避難路や避難場所のわかりやすさや実度に対する満足度								
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	公園(雁宿公園)	△	知多半田駅前土地区画整理事業を始め、半田運河周辺景観整備等、玄関口となる駅周辺や観光拠点の整備が進み、一定の満足度の改善が見られた。しかしながら、駅周辺を始めた商業施設等の充実度に市民ニーズとの乖離が見られたことから、目標を達成するだけの不満の引き上げには至らなかった。	IV	-	避難所の耐震改修、耐震性貯水槽の整備を進めたことにより、一定の満足度の改善が見られた。しかしながら、避難場所となる学校グラウンドの整備が完了していないことや、事業期間中に発生した東日本大震災や南海トラフ地震の被害想定が引き上げられたことにより、市民の安全・安心に対するニーズが想定以上に高まったため、目標を達成するだけの不満の引き上げには至らなかった。	III						
	地域生活基盤施設(広場)(半田運河周辺広場整備事業)	△			-								
	地域生活基盤施設(広場)(半田赤レンガ建物整備事業)	△			-								
	地域生活基盤施設(情報板)(サイン整備事業)	△			-								
	地域生活基盤施設(駐車場)(駐車場整備事業)	△			-								
	地域生活基盤施設(地域防災施設)(非常用発電設備設置事業)	-			△								
	高質空間形成施設(緑化施設等)(半田運河周辺景観道路整備事業)	△			-								
	既存建造物活用事業(高質空間形成施設)(半田運河周辺広場整備事業)	△			-								
	既存建造物活用事業(地域交流センター)(半田赤レンガ建物整備事業)	△			-								
	既存建造物活用事業(観光交流センター)(半田赤レンガ建物整備事業)	△			-								
提案事業	地域創造支援事業(半田運河周辺広場整備事業)	△			-								
	地域創造支援事業(半田赤レンガ建物整備事業)	△			-								
	地域創造支援事業(学校グラウンド改修事業(避難場所))	-			△								
	地域創造支援事業(観光推進事業)	△			-								
	地域創造支援事業(新美南吉記念館リニューアル事業)	△			-								
	地域創造支援事業(空地・空き店舗対策事業)	△			-								
	事業活用調査(事業効果分析調査)	-			-								
	雁宿公園活用調査	△			-								
関連事業	蔵のまち四季イベント実施事業	△			-								
	春の山車まつり誘客事業	△			-								
	交通安全対策事業	△			△								
	雁宿ホール駐車場整備事業	△			-								
	安心・安全まちづくり事業	△			△								
	防犯灯整備事業	△			△								
	市民との協働による地域環境整備事業	△			△								
	防災資機材整備事業	-			△								
	消防団車両整備事業	-			△								
	新美南吉記念館整備事業	-			-								
	JR駅前地区まちづくり勉強会	△			-								
	JR半田駅前土地区画整理事業	△			-								
	アイプラザ活用事業	△			-								
	市役所庁舎整備事業	-			△								
	学校体育館耐震改修事業(避難所)	-			△								
	耐震性貯水槽整備事業	-			△								

※目標未達成への影響度
 ××:事業が効果を発揮せず。

- 指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- × 事業が効果を発揮せず、
指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △ 数値目標が達成できなかった中でも、
ある程度の効果をあげたと思われる。
- ー 事業と指標の間には、もともと関係がないことが
明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

<p>改善の方針 (記入は必須)</p>	<p>市の玄関口となる知多半田駅、半田駅周辺の商業施設に関する市民のニーズ把握を進めるとともに、中心市街地の活性化に努める。</p>	<p>災害対策として避難所となる既存建物の耐震化や避難路の整備等を進めるとともに、津波・高潮避難計画の策定を通じて市民に対して避難路や避難場所の周知を進める。</p>		
--------------------------	--	---	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画事業庁内検討組織	都市計画課、企画課、総務課、商工観光課、土木課、スポーツ課、学校教育課、新美南吉記念館	第1回：平成26年9月30日 第2回：平成26年11月6日	都市計画課(都市再生整備計画事業主管課)

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
知多半田駅周辺において、地権者の高齢化による新たな土地利用意欲の低下や、事業者の郊外への転出により、未利用地が見られる。	空き地・空き店舗対策事業により新規事業者の出店が促された。	—	
半田の歴史や文化を活かしたまちづくりが求められており、半田運河周辺の歴史的景観資源を活かした観光振興や半田赤レンガ建物の常時公開にむけた持続的な集客を図るための機能および仕組みの検討などが必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ・半田運河周辺における道路の高質化や観光の拠点となる広場の整備を行った。工事に先立ち旧中笠半六郎の特別公開を行ったことにより、集客力が向上するとともに、広場整備をPRすることで運河周辺のイメージアップを図ることができた。 ・半田赤レンガ建物において窓枠改修を行い、カプトビール工場時代の意匠を復元するとともに特別公開時の快適性を向上させることで観光客等の増加が図られた。特別公開の際には整備工事についてもPRでき、イメージアップを図ることができた。 ・車両系サインや観光案内板等の整備により来訪者の回遊性の向上が図られた。 ・駐車場の整備により半田運河周辺の来訪者の利便性の向上が図られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・半田運河周辺の魅力をさらに高めるため、源兵衛橋以南や下町通り等の道路の高質化及び景観形成を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・半田赤レンガ建物では、観光バスの受け入れ等を考慮した交通環境整備が必要である。 ・回遊性が高く、快適に移動できるまちづくりのため、観光施設を回るための仕掛けづくりが必要である。 ・雁宿公園では歴史的価値を活かすとともに、旧交通公園跡地等の未利用地の活用が必要である。 ・新美南吉記念館を含む岩滑地区において、童話の情景や田園風景を活かした景観形成をさらに進め、「南吉童話のふるさと」の魅力向上を図る必要がある。
新美南吉ゆかりのごんぎつねの里地区では、観光客が年々増加し、イベントを開催できるスペースや駐車場など南吉記念館の施設拡充が必要である。	新美南吉記念館の展示リニューアル及び新設幹線道路乗り入れ口の整備、来館者駐車場の増設により、施設の魅力と利便性向上が図られた。	—	
童話の世界と通じる南吉記念館周辺の田園風景は、南吉を広めていく上で大切な資源であり、今後、周辺地域の景観形成の誘導を図る必要がある。	新美南吉生誕100年記念事業を始め、南吉に関する顕彰活動が市内外に広まった。また、地域団体により矢勝川における彼岸花の植栽活動や清掃活動が行われ、秋まつりを開催することにより多くの観光客が訪れるようになった。	—	
耐震化された避難施設の充実や避難対策の早期実施と同報無線の早期整備が必要とされている。また、備蓄資機材等を保管する場所(倉庫)が不足しており、場所の確保が必要である。	避難場所となる主要施設の耐震化や、災害時の拠点機能の強化が図られた。	—	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	知多半田駅、半田駅周辺における出店促進	駅前の再開発ビルを始め、駅周辺の低未利用地について店舗整備に対する補助を行うことで、新規事業者の出店を促進する。	空き地・空き店舗対策事業
	観光振興のための基盤整備	良好な景観の維持や集客力を向上するため、基盤整備を始め観光資源となる施設の機能と魅力の向上を図る。	半田運河周辺景観道路整備事業 観光推進事業 サイン整備事業
	観光振興のためのイベント等の推進	観光拠点となる半田運河、岩滑地区、半田赤レンガ建物では、各種まちづくり団体等や半田赤レンガ建物の指定管理者と連携を図り、季節に合わせたイベント等の開催により、魅力のPRと持続的な集客に努める。	各種まちづくり団体等や指定管理者との協働による事業
	避難場所の充実及び市民への周知	避難場所をはじめとする施設の機能強化を進めるとともに、市民への避難場所の周知に努める。	防災MAPの配布など周知活動 案内看板の設置

B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	観光施設への回遊性の向上	点在する観光資源へのネットワークの改善やサイン整備を推進する。	観光推進事業 サイン整備事業 (都)土井山新居線
	景観形成の推進	半田運河周辺地区や岩滑地区において修景整備を行うとともに、市民による景観形成に関わる行為に対して支援を行う。	半田運河周辺景観道路整備事業 ふるさと景観形成支援事業 景観形成重点地区整備事業
	歴史的価値を活かし、市民ニーズに合わせた公園整備	歴史的価値を踏まえ、市民の憩いの場として市民ニーズに合った公園整備を進める。	雁宿公園整備事業

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5ー参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

- ・新美南吉記念館は南吉顕彰の聖地的中心地であり、南吉文学愛好者や研究者、教育者等が全国から記念館を目指して来訪する。これらの来訪者の満足度を高めることが、来訪者の増加を図るために重要である。このため、南吉研究の成果を反映した常設展示や特別展・企画展の開催の充実をこれまで以上に進める必要がある。また、南吉文学の魅力の広め、来訪者を増やすには、マニア向けだけでなく、一般観光客、市民、子どもが南吉文学に親しめるような機能の充実が必要である。このため、記念館敷地内に南吉童話の世界が体感できるような屋外展示や園庭を整備することが有効であり、その実施を検討する。さらに、記念館を含む岩滑地区は、南吉作品の舞台となった地域であり、豊かな自然を生かした「南吉童話のふるさと」が感じられる情景の整備をすすめることが、来訪者の増加には有効である。情景整備は地元の全面的協力が不可欠であり、南吉に因んだイベントの開催も含め、NPOなどまちづくり団体の活性化を促進することが重要である。
- ・半田赤レンガ建物では、観光拠点としての魅力を高めるため、隣接する貸地について、跡地の活用方法や継続的な集客の確保に対する検討が必要である。
- ・防災に関する取組を充実させるには、避難路の案内看板の整備等のハード整備だけでなく、岩滑の自主防災会にみられるような家具転倒防止対策、水害防災訓練等のソフト事業により住民の意識向上を図ることが重要である。
- ・半田の持つポテンシャルを活かすため、行政、商工会議所、商店街等、商業まちづくりに関わる組織が一体となりクラシティを始め中心市街地活性化に取り組むことが重要である。
- ・行政の人手不足が課題であり、交付金を効果的に活用するために適切な職員の配置や人材育成が重要である。

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度					予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	酔の里・酒の文化館・新美南吉記念館の来場者数	人/年	191,950	H20	218,710	H26	確定	218,913	○	あり	→	平成28年7月	各施設が平成28年3月に集計した平成27年度の各施設来場者数により整理する。	
							見込み			●				
指標2	知多半田駅やもよりの駅周辺の整備、商業やサービス業また観光の振興に対する満足度	Pt	-1.56	H20	-0.59	H26	確定	-1.26	△	あり	→	平成28年7月	平成28年7月に市民アンケートを実施する。	
							見込み			●				
指標3	安全な避難路や避難場所のわかりやすさ充実度に対する満足度	Pt	-1.44	H20	-0.17	H26	確定	-1.37	△	あり	→	平成28年7月	平成28年7月に市民アンケートを実施する。	
							見込み			●				
指標4				H		H	確定			あり	→			
							見込み							
指標5				H		H	確定			あり	→			
							見込み							
その他の数値指標1	5年前と比較した、良好な景観形成、観光振興、主要な施設への案内の分かりやすさの変化		3.0	H21			確定	3.46		あり	→	平成28年7月	平成28年7月に市民アンケートを実施する。	
							見込み			●				
その他の数値指標2	5年前と比較した、大規模災害に備えた安全・安心なまちづくりの変化		3.0	H21			確定	3.11		あり	→	平成28年7月	平成28年7月に市民アンケートを実施する。	
							見込み			●				
その他の数値指標3				H			確定			あり	→			
							見込み							

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	新美南吉生誕100年記念事業について、実行委員会との協働のもと魅力あるイベントを数多く実施したことにより新美南吉記念館の来館者が増加し、目標値を上回る結果となった。	数値目標と事業の整合や外的要因等による影響について考慮するとともに、市民と協働により効率的な事業の促進を図ることが有効である。
	うまくいかなかった点	指標3の安全な避難路や避難場所のわかりやすさ充実度に対する満足度は、計画期間内に東日本大震災という想定不可能な外的要因の発生により、目標値の達成に至らなかった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	—	—
	うまくいかなかった点	—	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	半田運河再活性化プロジェクトや新美南吉生誕100年記念事業を契機として、市民によるまちづくり団体が形成され、観光を中心としたまちづくりの取り組みが活発化した。	市民主体による取組は、まちづくりに関する市民ニーズの反映やイベントの実施における波及効果をもたらすため、有効である。
	うまくいかなかった点	—	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	定期的なモニタリングの実施により、事業の進捗状況及び数値目標に対する指標の状況を確認しながら計画的に事業を実施することができた。	定期的なモニタリングの実施は、事業の進捗状況や、指標目標の見直し等を実施できるため、有効である。
	うまくいかなかった点	—	
その他	うまくいった点	—	—
	うまくいかなかった点	—	

添付様式6—参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

【今後の都市再生整備計画事業の活用予定】

新規に「半田歴史文化を迎えるまち地区都市再生整備計画」(平成27年～平成30年)を作成し、事業を実施する。

【今後の事後評価を予定する地区】

本市においては、平成27年度に半田乙川地区、平成30年度に半田歴史文化を迎えるまち地区都市再生整備計画において事後評価を実施予定である。当地区における事後評価の経験を踏まえ、円滑に事後評価を実施したい。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	ホームページでの掲載	平成27年1月7日	2週間	都市計画課を受付窓口として、窓口への意見書・電子メールにより意見を受付ける。	都市計画課 (都市再生整備計画事業主管課)
広報掲載・回覧・個別配布	市広報への掲載により周知し、都市計画課窓口で閲覧	平成27年1月	—		
説明会・ワークショップ	なし				
その他	都市計画課にて原案閲覧	平成27年1月7日	2週間		

住民の意見	
-------	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

	委員構成	実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	名古屋市立大学 名誉教授 瀬口 哲夫 氏 日本福祉大学知多半島総合研究所 副所長 山本 勝子 氏	平成26年12月3日	都市計画課 (都市再生整備計画事業 主管課)	半田市社会資本整備総合交付金(半田運河蔵の街・ごんぎつねの里地区)評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	半田市観光協会 事務局長 松見 直美 氏 矢勝川の環境を守る会 会長 榊原 幸宏 氏				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が実施されたことが確認された。
	成果の評価	・指標1「酔の里・酒の文化館・新美南吉記念館の来場者数」について、平成25年の新美南吉記念館の来場者数は生誕100年記念イベントによる大幅な増加があり、特異値となることから、推計方法について意見があった。 →意見を踏まえ、平成26年11月末までの実測値をもとに推計を実施し、これまでの推計値と比較を行った結果、平成26年11月末までの実測値をもとにした数値を採用した。
	実施過程の評価	・持続的なまちづくり体制の構築について、複数の団体の取り組みがあるため、「半田運河の会」のみを取り上げることに意見があった。 →その他のまちづくりに関連する団体を記載することとした。
	効果発現要因の整理	・特になし
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案の公表時期、方法については妥当であると認められた。
	その他	・特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・自主防災会で行われている活動について記述してはどうかという意見があった。 →意見を踏まえ、今後のまちづくり方策に関するその他意見に自主防災会に関する記述を追加した。 ・交付金の活用の際、行政の人手不足が課題であるという意見があった。 →意見を踏まえ、今後のまちづくり方策に関するその他意見に、職員の適切な配置や人材育成の重要性について記述を追加した。 ・駅周辺の空き店舗対策について、市全体として駅前から観光資源となる施設への流れなどを考慮した戦略の必要性と、商業施設のマネジメントについては行政と商業まちづくりに関する組織の協働による見直しが必要、という意見があった。 →意見を踏まえ、今後のまちづくり方策に関するその他意見に中心市街地活性化に関する記述を追加した。
	フォローアップ	・特になし
	その他	・特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	・特になし	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。